

たぶせ未来戦略（案）に対するパブリックコメント実施結果について

1 意見募集期間 令和8年2月2日（月）から令和8年3月2日（月）

2 意見の件数等

(1) 意見をいただいた人数 13人

(2) 意見の件数 112件

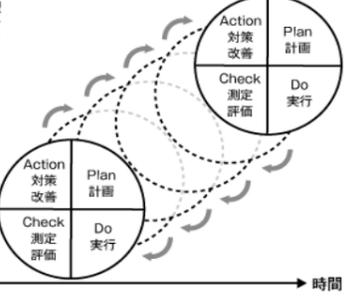
(3) 案に反映した意見の数 58件

提案者	No.	質問・意見	意見に対する町の考え方	反映したもの																																
提案者1	1	第3章2(1)について修正を求めます。 推進施策の展開において、のんびらんど・うましに關する直接的な記載がない中で、KPIとして年間延利用者数2,400人（現状2,004人）という増加目標が設定されています。 指定管理者制度のもとで運営を担っている立場として、目標値の設定自体は理解するものの、戦略上の位置付けが明確でないまま数値のみが示されることについては、現場との整合性に課題を感じます。 利用者増加を目指すのであれば、施設の役割や方向性について戦略内に一定の位置付けを示すことが、目標達成の実効性を高める上でも重要であると考えます。 については、のんびらんど・うましを本町の自然環境を活かした交流拠点の一つとして明確に位置付け、町と指定管理者が連携しながら利用促進に取り組む旨の方向性を戦略内に明記することを提案します。 目標値と施策内容の整合性が図られることで、より実効性のある計画になるものと考えます。	施設の役割や方向性について、のんびらんど・うましに關しては、施設の老朽化が進み、計画的に改修していく意味で、小行司にここパークも含めて交流拠点施設として機能させていくことを記述し、目標達成の実効性を高めることとします。	○																																
	2	第3章2(1)「島ならではのおもてなしが行われている馬島地域」という記載について修正を求めます。 現在の馬島の人口規模や地域の実情を踏まえると、「島ならではのおもてなしが行われている」との記載は、現状の実態と一致していないと考えます。 計画文書においては、実態に即した表現とすることが重要であることから、当該記載の削除を求めます。	「島ならではのおもてなし」は削除します。	○																																
提案者2	3	1. P15「戦略の全体構成」の「推進施策の展開」の修正について P16以降の各施策と整合性が取れていない箇所がある。 1) 基本目標1 こどもファーストのまちづくり (1) 結婚・出産しやすい環境づくり 推進施策の展開 ○妊娠初期からの切れ目のない支援 ○安心して出産できる環境整備（追加） ○産前・産後サポート → 産後ケアの充実（修正）  2) 基本目標2 「やっぱり田布施がいい」と思えるまちづくり (3) 行政手続きのデジタル化の推進 推進施策の展開 ○行政手続きのデジタル完結の推進（追加） ○サイバーセキュリティの確保 ○行政保有データのオープン化の推進 ○デジタルデバйд対策	訂正します。	○																																
	4	2. P15「戦略の全体構成」の「KPI（重要業績評価指標）」の修正について P27 基本目標3 地域資源を活かし、再生・発展するまちづくり (1) 農林水産業の未来を創るスマート技術の開発・普及促進 KPI ・都市部との交流人口増加率：+20% → ・交流館、にここパーク来場者数 36.3万人等	訂正します。	○																																
	5	3. P16以降のKPIについて 施策によっては、基準値（年度）の記載がないため、どれだけ良くなるのか不明です。KPIの基準値（年度）の記載をお願いします。	訂正します。	○																																
	6	4. P16「(1) 結婚・出産しやすい環境づくり」について 推進施策の展開に、「婚活イベント」や結婚に伴う新生活のスタートアップに関わる家賃や引っ越し費用など支援する「結婚新生活新事業助成」の記載がないが、令和8年度より事業を中止するのか。	「結婚」に関する施策を追記します。	○																																
	7	5. P18「(3) 社会的な支援が必要な子どもへの支援体制づくり」について 1) 田布施町障がい者計画では、障害児は「障がい児」で記載されているので、修正しては。  2) 「推進施策の展開」中、「・発達障がい等に関する…施設職員や保護者に対し障がい等の早期発見・対応…」の「障がい」は誤字では。	訂正します。	○																																
	8	6. P19「(4) 子育てを支える体制づくり」について ○切れ目のない支援体制づくり（子育て相談の体制強化） ■こども家庭センター2525（にここ）たぶせへ修正	訂正します。	○																																
9	7. P23「(1) 地域に愛着を持ち、地域で活躍する人材の育成」について 地域に愛着を持つためにも、自治会加入率が下がっている現状をどうにかしないといけないため、個別避難計画による近所等との地域コミュニティの推進を図るべきだと思う。	少子高齢化や人口減少により、地域コミュニティの推進が重要となってきています。今後、自助、共助、公助の取組・施策の参考にさせていただきます。																																		
10	8. P25「(3) 行政手続のデジタル化の推進」について 推進体制の展開の「○行政保有データのオープン化の推進」に、町HPに、求められる情報を効果的に発信し、また知ることができるHP運営に努めるように記載して欲しい。 理由) 町HPに見たい情報が掲載されていない。 例：町HPには、町議会の議案名しか掲載はなく、議案やその内容・資料が掲載されていない。議案名だけでは、何のことかわからない。議案内容がわかるのは、議会広報が出るまで待つか、議会を傍聴するしかない。	貴重なご意見ありがとうございます。 HP内容の改善に努めます。																																		
11	9. P29「(3) スタートアップを生み出すエコシステムの形成」について 1) 推進体制の展開の「○新たな観光拠点づくり」の「・将来的な新駅舎…毎回本町を訪れたいくなるよう」⇒「・将来的な新駅舎…毎回本町を訪れたいくなるよう」	訂正します。	○																																	
12	2) 推進体制の展開の「○地域連携によるものづくり支援、特産品の魅力向上」に、「島スクエアプラス事業」や周南地域地場産業振興センター等の積極的な活用を追加するべきでは。	ものづくりに共同で取り組む記述をします。	○																																	
13	10. P32 関連する田布施町の各種計画 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>計画等</th> <th>提供年度</th> <th>終了年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>田布施町障がい者計画</td> <td>R6</td> <td>R8→R11</td> </tr> </tbody> </table> ※理由) 田布施町障がい者計画(第6期)＜計画期間 令和6年度～令和11年度＞で、障がい福祉計画(第7期)・障がい児福祉計画(第3期)の＜計画期間 令和6年度～令和8年度＞になっている。 上記の場合の終了年度は令和11年度ではないか。  <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>計画等</th> <th>提供年度</th> <th>終了年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域福祉計画</td> <td>---</td> <td>---</td> </tr> <tr> <td>田布施町地域福祉計画</td> <td>R6</td> <td>R11</td> </tr> </tbody> </table> ※理由) 上記の「地域福祉計画」は何の計画ですか。「田布施町地域福祉計画」のことではないか。  <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>計画等</th> <th>提供年度</th> <th>終了年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第3期田布施町子ども・子育て支援事業計画</td> <td>R7</td> <td>R11</td> </tr> <tr> <td>田布施子ども計画</td> <td>R8</td> <td>R12</td> </tr> </tbody> </table> ※理由) 上記の「田布施子ども計画」は何の計画ですか。「第3期田布施町子ども・子育て支援事業計画」のことではないか。 <b>その他の計画についても再チェックが必要では！</b>	計画等	提供年度	終了年度	田布施町障がい者計画	R6	R8→R11	計画等	提供年度	終了年度	地域福祉計画	---	---	田布施町地域福祉計画	R6	R11	計画等	提供年度	終了年度	第3期田布施町子ども・子育て支援事業計画	R7	R11	田布施子ども計画	R8	R12	・田布施町障がい者計画 ご指摘のとおり修正します ・地域福祉計画 ご指摘のとおり修正します ・第3期田布施町子ども・子育て支援計画 こども計画は、「こども基本法」に基づき、地域の実情に合わせてこども施策（子育て支援や貧困対策や育成支援など）を総合的・一体的に策定する計画です。現在は、市町村の策定が努力義務と課せられています。本町では、令和8年度に、「田布施町子ども・子育て支援事業計画」を内包する形で策定する計画です。このことから以下のように修正します。  <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>提供年度</th> <th>終了年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第3期田布施町子ども・子育て計画</td> <td>R7</td> <td>R11</td> </tr> <tr> <td>子ども・子育て計画</td> <td></td> <td>(R9～子ども計画に内包する。)</td> </tr> </tbody> </table>		提供年度	終了年度	第3期田布施町子ども・子育て計画	R7	R11	子ども・子育て計画		(R9～子ども計画に内包する。)	○
計画等	提供年度	終了年度																																		
田布施町障がい者計画	R6	R8→R11																																		
計画等	提供年度	終了年度																																		
地域福祉計画	---	---																																		
田布施町地域福祉計画	R6	R11																																		
計画等	提供年度	終了年度																																		
第3期田布施町子ども・子育て支援事業計画	R7	R11																																		
田布施子ども計画	R8	R12																																		
	提供年度	終了年度																																		
第3期田布施町子ども・子育て計画	R7	R11																																		
子ども・子育て計画		(R9～子ども計画に内包する。)																																		

提案者	No.	質問・意見	意見に対する町の考え方	反映したもの	
提案者3	14	高齢化を抑制するにはどうするのか？	できるだけ少子化対策を行うことで、結果として急速な高齢化を和らげたいと考えています。		
	15	この実施計画が、「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」？	「たぶせ未来戦略」が「まち・ひと・しごと創生法」（平成26年法律第136号）で示される「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」に該当します。		
	16	P.2 「3. 計画の性格と役割」について、役割1～3が今までの業者がつくった町民にわかりにくい言葉でつづられている。今後のまちづくりの方向性を町民に示す大切な文なので、町民が読んで理解できるものであるべきでは？	「第6次田布施町総合計画」から継続した計画という位置づけであるため、「第6次田布施町総合計画」第1章に記載のままとしております。		
	17	P.3 町勢の概要 「北西部は山岳地帯」でしょうか？	「山間部」が適切であると考えます。	○	
	18	P.6 「4. 人口と世帯」「令和2年現在で14,439人」 P.14 基準値2020年14,483人 どっちが正しい？	P.14に記載の14,483人が正しい値です。	○	
	19	P.6 【人口の推移 年齢3区分人口】 人口の合計数を入れるべきでは？	合計値を追記します。	○	
	20	P.7 【年齢3区分別人口構成比の全国・山口県との比較】 年齢なし	年齢を追記します。	○	
	21	P.7 【平成2年（1990年）を基準とした場合の人口の伸び率】 数字が隠れている	適切な配置に変更します。	○	
	22	P.8 【産業別就業者の推移】 人口の合計数を入れるべきでは？	合計値を追記します。	○	
	23	P.9 産業特化係数とは？説明が必要だね	「産業別特化係数」の説明を追記します。	○	
	24	P.10 「男性は約5万5,000人の転出超過、女性は約6万4,000人の転出超過」と「若者と女性の転出超過」について、男女問わずでは？	男女問わず多くなっておりませんが、田布施町が消滅可能性自治体になった原因として、「若い女性の転出超過」がありますので、そこにフォーカスしております。		
	25	P.10 「需要の減少が懸念される中」 何の需要？（消費）	「消費」を追記します。	○	
	26	P.10 「2. 地域経済の状況（2）労働生産性及び賃金」について、海外に売って賃金を上げる⇒町内でどれほどの企業が該当するのか？これで本当に実質賃金が上がるのか？	現在、海外へ輸出している企業は2社（町しらべ）あります。国内消費需要が縮小し、円安が進む中では海外に売ることによって収益を改善することも一つの選択肢であると考えます。		
	27	P.12 「地方創生1.0の反省を踏まえ」について、知らないのではないか？どう伝え理解していくのか？	「地方創生2.0基本構想」（令和7年6月13日閣議決定）を参照するよう促す内容を記載します。	○	
	28	P.14 人口ビジョンにおける将来展望人口の達成 「基準値（2020年）14,483」 P.6と異なる	P.14に記載の14,483人が正しい値です。		
	29	P.15 「のりーね」の1運行あたりの輸送人員 P.24とにあわせる	訂正します。	○	
	30	P.15 「周産期医療維持の取り組み」できるのか？	県及び関係市町、産科医療機関の合同会議で確認しており、実施可能です。		
	31	P.16 「安心して出産できる環境整備」について2つある施策を1つにしてはどうか？（案）県浸透で遠方の医療機関を受信する必要がある場合の交通費の補助や出産・子育てに関わる経済的支援（給付金等）を実施します。また、DX化によりひつような情報をプッシュ型で提供します。としたほうが分かりやすい？	訂正します。	○	
	32	P.17 「4. 質の高い教育をみんなに」入らんかね	追加します。	○	
	33	P.17 KPI「保育所及び放課後児童クラブの待機児童数：0人」現在の割合は？ 現在〇〇%⇒目標〇〇%とそなければわからない。以下同じ	現在は待機児童数0人（令和7年4月現在）目標値とすれば、「保育所及び放課後児童クラブの入所希望児童数100%」を目指し、目標値に修正します。	○	
	34	P.18 「5. ジェンダー平等を実現しよう」「10. 人や国の不平等をなくそう」追加	追加します。	○	
	35	P.19 「10. 人や国の不平等をなくそう」追加	追加します。	○	
	36	P.21 「2. 飢餓をゼロに」給食だけでは防げないので削除	給食提供は「2. 飢餓をゼロに」の一助になっていると考えます。		
	37	P.22 KPI「公民館講座や生きがい教室を開催：各公民館で年10回以上」すでにできているのでは？	貴重なご意見ありがとうございます。 公民館講座や生きがい教室を開催：年10回以上 → 年12回以上に修正します。	○	
	38	P.23 KPI 対比できてて良い	ご意見ありがとうございます。		
	39	P.25 「自治体標準オープンデータセット」分かりにくい言葉は下に解説を	説明文を追加します。	○	
	40	P.26 「新たな農業振興モデル」とは何か解説を	企業の経営体の育成を軸としている旨を記述します。	○	
	41	P.28 「15. 丘の豊かさを守ろう」追加	追加します。	○	
	42	P.29 「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」追加 「2. 飢餓をゼロに」削除	追加します。	○	
	43	P.32 重複記載計画を削除	訂正します。	○	
	44	感想として今までの総合計画とあまり大差ないと感じた。戦略会議でどのような意見が出たのかはわからないが、もっと町民の声が未来への思いが前面に出てくるべきだと思う。そういった委員の声は無かったのだろうか。もしあれば計画内に入れていただけたらと思う。今回、未来戦略会議のメンバーが意見を出し合ってくれた計画であり良かった点をぜひ、計画の中に盛り込み「ご尽力を賜りました委員の皆様をはじめ、様々な機会を通じてご協力いただきました皆様に心から感謝するとともに」では町民にはわからないと思う。何度も会議を重ね、まとめあげられた計画であることを文にすべきでは！	現行の総合計画から継続している方針や事業をベースとし、国の地方創生2.0とリンクする形で策定しております。また、たぶせ未来戦略策定検討委員会では、町長に対する提言という形で意見をまとめていただきました。		
	提案者4	45	<ご挨拶ページ> 3行目 「こらから」 は誤字ではありませんか。	訂正します。	○
		46	<4ページ 2.歴史・沿革> 4項目目 ○笑顔と元気あふれる住みよいまちの実現へ 他の項目と比べ ますます調が異なるため、統一されては	訂正します。	○
		47	<6～9ページ> 人口データが令和2年（2020年）のままでは現状を反映していません。令和7年のデータが難しい場合でも、少なくとも令和6年のデータを使用すべきです。 現状の2020年データでは、直近5～6年分の変化が反映されておらず、現実的な状況を示しているとは言い難いです。	令和7年度国勢調査結果は、現時点公開（e-Stat 政府統計の総合窓口）されておらず利用できません。 いただいたご意見は、今後の改訂時に考慮いたします。	
		48	<8ページ> 女性の「鉱業、採石業、砂利採取業」の特化係数が高いと記載されていますが、実際の従事者数は1名です。主要産業と誤解される可能性があり、表記方法の再検討が必要です。	男女それぞれが10人未満の産業については、参考値という扱いにします。それに応じて記載内容を変更します。	○
49		<11ページ> 「NFT8」は誤記と思われる、「NFT」が正しいと考えます。 また文末の句点が抜けています。 NFTは、注釈の追加が望まれます。	訂正します。NFTの説明を追記します。	○	

提案者	No.	質問・意見	意見に対する町の考え方	反映したもの
	50	<p>&lt;14ページ&gt;</p> <p>基本目標1 こどもファーストのまちづくり</p> <p>支援が必要な家庭だけではなく、支援必要の有無に関わらず子育てがしやすい環境を進めてほしいです。</p> <p>今の文章は女性にフォーカスがされていますが女性が働きながら子育てするには、家族の理解・協力が必要。男性の育児休暇取得・育児参加・家事参加を促す施策も必要です。</p> <p>基本目標2 「やっぱり田布施がいい」と思えるまちづくり</p> <p>基準値2020年 目標値2030年が予測値より高いのが、これだけではわからないので予測値の明記も必要ではないでしょうか。</p>	<p>社人研予測値を追記します。</p>	○
	51	<p>&lt;17ページ&gt;</p> <p>子どもの豊かな育ちを支える環境づくり</p> <p>「子ども・若者が権利を自覚し理解を深める」施策にKPIが設定されていません。</p> <p>自己肯定感の現状値と目標値を設定すべきです。</p>	<p>今後、こども計画を策定するにあたり、こどもの意見を把握し（アンケート調査の実施）反映していく予定です。今回は設定しておりませんが、今後検討していきます。</p>	
	52	<p>&lt;18ページ&gt;</p> <p>「児童虐待の防止の観点から「ポコアポコ」の充実を図る」ということであれば、小学生や中学生の心のケア・見守りもお願いしたい。現在イベント以外は保護者同伴でないと行けないが保護者から離れて避難できる居場所であって欲しい。現在、子どもが自力で行くには遠すぎる。（急勾配の橋を越え、さらに高台にある）自力で行ける場所にあって欲しい。</p>	<p>いただいたご意見は、参考にします。現在、西田布施公民館で中高生カフェを実施しています。（第4土曜日）令和8年度からは、場所と曜日を変更し、保健センターで実施します。（第4日曜日）</p>	
	53	<p>&lt;21ページ&gt;</p> <p>（5）学校教育の推進 KPI・小中学校のタブレットを持ち帰って学習する割合100%について</p> <p>タブレットの一律100%持ち帰り方針は、再検討が必要であると考えます。</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知心理学では、タイピングより手書きの方が概念理解・長期記憶保持に優れることが示されています。</li> <li>・手書きは情報を再構成する「生成効果」を伴い、深い処理を促します。</li> <li>・神経科学でも、手書きは記憶形成に関わる広範な脳領域を活性化することが示唆されています。</li> </ul> <p>一方、デジタル端末は浅い処理や情報過多を招くリスクが指摘されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間使用による姿勢悪化・視力低下、読書離れの懸念もあります。</li> </ul> <p>・また、宿題は「学習習慣をつけるため」と教育委員会が説明してきましたが、タブレット学習は習慣づけに適さない可能性があります。</p> <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット学習自体は必要ですが、「持ち帰り100%」という量的目標ではなく、適度な利用を維持すべきです。</li> <li>・発達段階にある児童生徒に対し、長期的影響の評価が不十分なまま全面的な持ち帰りを進めることは慎重であるべきです。</li> </ul> <p>○生徒指導の充実</p> <p>いじめ・不登校対策として、小学生の居場所づくりに関する目標値が示されていません。設定が必要ではないでしょうか。</p> <p>○食育の推進</p> <p>給食の残し方を見ると、学年によって好き嫌いが多く、「食わず嫌い」も見受けられます。</p> <p>地産地消は重要ですが、幼少期からの食育が特に大切であり、幼児期や小学校で食に携わる機会（育てる・作る・味わう）を増やすことを検討すべきです。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、タブレットのKPIについては削除いたします。</p> <p>その他いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として今後の参考とさせていただきます。</p>	○
	54	<p>&lt;27ページ&gt;</p> <p>KPI 交流館とにここパーク来場者数が合算されていますが、施設が異なるため、別々に明記すべきです。</p>	<p>にここパークは28ページに明記します。</p> <p>農林業イベントの開催回数を交流館のみの回数に修正します。</p>	○
	55	<p>&lt;28ページ&gt;</p> <p>「島ならではのおもてなし」は削除が適切です。</p> <p>KPI「にここパーク」は28ページに明記する方が分かりやすいです。</p> <p>化学肥料・化学農薬の低減の農業を推進するのは素晴らしいことです。</p> <p>目標値を設定されませんか。</p>	<p>「島ならではのおもてなし」は削除します。</p> <p>にここパークは28ページに明記します。</p> <p>化学肥料・化学農薬の低減は取組農業者の目標のため、本戦略内で目標値の設定は行いません。</p>	○
提案者 5	56	<p>p21（5）学校教育の推進 KPI・小中学校のタブレットを持ち帰って学習する割合100%について</p> <p>○端末を必ず持ち帰らせることを最初に掲げる指導は、本来の学びの意図からずれているように感じる。</p> <p>○タブレットに頼りすぎると結論だけを求めやすくなるため、思考過程を重視する観点から、端末の持ち帰り率を100%目標とするべきではない。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、タブレットのKPIについては削除いたします。</p>	○
提案者 6	57	<p>このパブリックコメントのあることを知ったのが最近でしたので、提出日が迫っていますので、整理しないで、私の意見を書き綴ります。</p> <p>全体を通して、私は「高齢者や障がい者、経済的に困窮している生活弱者に対して優しい町」であって欲しいと願っています。</p> <p>だから、それが各所に貫いているものになるよう練り直して頂きたいです。</p> <p>例えば、障がいのある無しに拘わらず、老若男女等多くの人が集える交流の場を、いろんな所に設置してお互いが理解し合えるようにほしいです。</p> <p>今、諸外国を回っていますが、インクルーシブ公園が彼方此方に設置されえいます。</p> <p>公共施設にも、そういった合理的配慮を障がい者目線で改修や新設をしてほしいものです。</p> <p>南海トラフによる地震と津波の避難所も、そういった弱者と支援者（介護者）が気兼ねなく、使用できるようにするのも大きな課題となりそうです。</p> <p>2025年問題として、団塊世代が、後期高齢者となり、認知症が早晩、増えて来そうです。その前段で食い止める施策も必要です。</p> <p>そういった人々を住んでいる地域で看取るとなると、地域の人の協力も必要となりますが、その体制はできつつあるのでしょうか？</p> <p>その一つの解決策として、「ごちゃまぜ共生社会」といったことが、いろんな地域で始まり、それなりの成果が上がっています。</p>	<p>ご意見として承ります。なお、田布施町障がい者計画においては、福祉のまちづくりの推進の項目の中で「ユニバーサルデザインの推進」を掲げています。</p>	
	58	<p>今、諸外国を回っていますが、インクルーシブ公園が彼方此方に設置されえいます。</p> <p>公共施設にも、そういった合理的配慮を障がい者目線で改修や新設をしてほしいものです。</p> <p>南海トラフによる地震と津波の避難所も、そういった弱者と支援者（介護者）が気兼ねなく、使用できるようにするのも大きな課題となりそうです。</p> <p>2025年問題として、団塊世代が、後期高齢者となり、認知症が早晩、増えて来そうです。その前段で食い止める施策も必要です。</p> <p>そういった人々を住んでいる地域で看取るとなると、地域の人の協力も必要となりますが、その体制はできつつあるのでしょうか？</p>	<p>ご意見として承ります。なお、田布施町障がい者計画においては、福祉のまちづくりの推進の項目の中で「ユニバーサルデザインの推進」を掲げています。</p>	
	59	<p>今、外国から日本に就労目的で来られている外国人の居住人口がいくらか分かりませんが、今後、増えることがあっても、減ることはないと思われず。</p> <p>今、私が乗っている地球一周の旅の船上では、中国、台湾、シンガポール、韓国等の外国人が、およそ2000人の乗客の内、3割の600人程度一緒に船内生活をしております。</p> <p>生活習慣の違いから、違和感もあることもありますが、いろんな場で交流することによって、それを克服しながら理解が深まっています。</p> <p>スマホの言語変換で会話もできます。</p> <p>今、シンガポールの人とは、シンガポール体操が日本人との仲介役になり、指導もしていますので、彼らとは信頼関係は厚いです。</p> <p>「日本人ファースト」をいう言葉が、選挙の公約に掲げられ、大きく取り上げられ、一定の支持を得ています。</p> <p>田布施町では、これからこういった避けては通れない問題をどうするのでしょうか、一番気になる所です。</p> <p>田布施町は、観光面でいえば、観光資源が多いにもかかわらず、それをうまくアピールできていないために、通過型観光となっています。</p> <p>今後は、滞在型観光となるよう公的な支援をしながら、新鮮な野菜や魚介類、地域の人たちが作った手作り品等を提供できる農家（漁家）レストラン、民宿（泊）が各地区にできるといいかもしれません。</p> <p>雇用が生まれ、町内に金が落ちてきます。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	
	60	<p>医療機関については、町内の中央部分に偏在しており、麻郷や麻里府地区の人は、国道188号線を使って、平生町や柳井市の医療機関に通っています。のりーねの運用の改善だけでは解決しそうにもありません。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	

提案者	No.	質問・意見	意見に対する町の考え方	反映したもの
	61	<p>経済的な格差が学力だけでなく体験活動にも格差が生じていると言われてます。 多くの子どもたちがスマホ漬けになっているとも聞きます。 学校ではノーメディアデーなるものを創設していますが、実態はどうなのでしょう？ 私は、これから田布施の今まで住んでいた所を自然体験塾として活用できるように整備していくつもりです。そんな活動拠点が彼方此方に広がっていくことを願っています。 タブレットを毎日家庭に100%目標で持って帰らせるということですが、家庭でそれができ得る環境整備はできているのでしょうか。 家庭では、体験活動を重視するような施策が必要ではないでしょうか。 昨年、街中に住んでいる3人の子ども連れの家族が、私の活動拠点となっている中郷地区で、週末農業をしながら1反4畝もある田んぼを、手植の田植え、除草機を押しての除草、そして、稲刈りは手刈りと稲刈り機でしたものの、ハゼ掛けの天日干しで、収穫していました。 雑草はほとんど生えず、大豊作でした。 畑も私と一緒に自給できる程度作っています。 不耕作地が増えてきているだけに、地元ではお手上げのそういった不耕作地を町内の街中に住んでいる人や週末農業で通ってこられる人たちに提供したらいいと思っています。 そういった人々を関係人口として括ってもいいかもしれません。 空き家があれば、二拠点居住で活用するのも手です。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として、今後の参考にさせていただきます。</p>	
	62	<p>集落支援員を麻里府地区で初めて導入され、今後増やしていくことには、大賛成です。 しかし、町外からその地区に精通しない人を登用するのはどうかと思います。 町外であっても、地区の現状を知ろうと、地区内の人と人間関係を作り、課題解決に当たられる人であれば、構わないのですが、デスクワークばかりで、地区回りや作業を厭う人は御免こうむります。 できれば、長年地区に住む元町の職員であれば、金の出処もよく分かるので、最適だと思います。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	
	63	<p>駅の改修も、駅舎やトイレだけでなく、駅前開発と一緒に進めて欲しいものです。 駅前に降りた人の第一印象を大切にすることを目標に開発を進めて欲しいものです。 一昨年来、9年間そういった思いで、駅前やプラットホームにある花壇やプランターに花が絶えないよう整備してきましたが、生活拠点を移動するに伴い、後継を募っても手を挙げる人が居なくなり、元の寂れた駅前になってきたと心配しています。 以前、整備していたこともある農工の校長にも談判に伺いましたが、ダメでした。 これだけでなく、いろんな面でボランティアのできる態勢づくりをしてもらいたいものです。その点では、中学校で「たくまるくん」の創設はヒットです。  駅の乗降客数の400人アップを目標にしていますが、以前の農工と熊南、総合支援学校の生徒の利用者数と熊南がなくなり、農工の生徒数が増えることで利用者数はどう変わるの試算していますか？ 何処から400人という数字を持ってきたのか気になる所です。 出生数をどれだけ弾いているのか分かりませんが、これから自然減は死亡数の増大、高校卒業者の町外への転出による社会減により、町の人口は、これから減少することは、避けられない問題です。</p>	<p>ご意見として承ります。</p>	
	64	<p>今回の2030年の人口目標は、以前弾いていた数値とはどうなるのでしょうか、少しは減少が鈍化するよう設定をしているのでしょうか？</p>	<p>令和2年度策定の「田布施町人口ビジョン」において、独自推計で2030年は、13,159人としています。今回の独自推計では2030年は、12,563人としています。詳しくは、令和7年度策定予定の「田布施町人口ビジョン」をご確認ください。</p>	
	65	<p>生涯スポーツの面では、中学校の部活の廃止に伴う地域移行で、受皿を早急に創設しなければなりません、その道筋はできているのでしょうか？ 老若男女、障がい者も含めた受皿を平生町とも連携しながら、進めていかないと町独自ではなかなか進められるものではありません。</p>	<p>推進協議会を設置し、国や他市町の状況も注視しながら段階的に地域移行できるよう慎重に進めているところです。 貴重なご意見ありがとうございます。</p>	
	66	<p>昭和46年からは、周南広域市町村圏振興整備協議会入った活動だったようですが、近年は、柳井市とその周辺の4町とのサザンセット地区での活動が主となってきています。水道の広域化が進み、平生町とは給食や下水道などでの連携が進んでいます。 さらに、両町とは連携が進むものと思われまます。 まちづくりでも、その1市4町で進めていく必要があり、どこかの市町だけで突出して交付金を得ようとまちづくりに支障となるもの（具体的には使用済み核燃料の中間貯蔵施設）の誘致は、その連携に分断をもたらすものなので、それにも言及してまちづくりの提案であってほしいです。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として、今後の参考にさせていただきます。</p>	
	67	<p>基本目標2以降は、KPIには、現状と目標値が書いてありますが、その前は、現状が書いていませんので、どれだけ目標値をアップしたかが判りません。 6次総合計画の達成状況を見て、今後の目標を立てるのなら、現状も令和2年度のものより、より新しい令和6年度程度のものにしていただきたい。</p>	<p>現状値を追記します。対応可能なものについては、より新しいデータを用います。</p>	○
	68	<p>この案の中に「産官学金労言」という言葉が登場しますが、ネットで調べると「産学官金労言」とも書いてあるものもあります。 また、この言葉は、私は初めて聞きますし、こういったように2通りあるものは、どちらか一方が社会全体に認知されていてそれを使用しているのでしょうか？ 出来れば、この言葉の意味するものを解説してほしいものです。</p>	<p>「産官学金労言」と「産学官金労言」が意味するものは同じです。 内閣府において、「産官学金労言」が使われていますので、こちらで記載しております。 従来あった「産学官」という官民連携から発展したもののため、「産学官金労言」が使われることもあるようです。 説明文を追記します。</p>	○
	69	<p>語句の訂正 P18 「推進施策の展開」の○障がいのある子どもと家庭への支援の充実の下段から2行目に「施設職員や保護者に対し障がいのある早期発見」と表記してあります。訂正をお願いします。</p>	<p>ご指摘のとおり修正します</p>	○
提案者7	70	<p>1. こどもファーストのまちづくり（5）学校教育の推進について KPI「授業内容がわかる」の割合：95%以上 の変更  まず、「授業内容がわかる」が曖昧である。 とりあえず今日はわかったのと、その分野の構造自体がわかったのは大きな差がある。さらに、授業が楽しい＝わかったと感じる子どもがいてもおかしくはない。以上の点から、「授業がわかる」という指標はあまりに曖昧である。 次に、わかるを目標にすることの危険性 わかるを目標にすることは、現場にわからなければいけないという圧力を生む可能性がある。これは子どもに悪影響を及ぼす可能性がある。「テストの点」を「わかる」という曖昧な言葉にすり替えただけで、昭和時代の学習環境と同じであるように思える。</p>	<p>いただいたご意見につきましては、貴重なご意見として、今後の参考にさせていただきます。</p>	
	71	<p>2. 同じく KPI 小中学校のタブレットを持ち帰って学習する割合：100% の廃止  まず、そもそも何のための目標かわからない。 現在家庭でタブレットを使用せずそれでも有意義な学校生活を過ごしている子どもにとっては、この目標は負担増でしかないように思う。 せっかくのタブレットを活用しよう！という目標なら、そんな目標が必要なタブレットを廃止するべきではないでしょうか。そもそもICT機器などの最大のメリットは作業の効率化で、小中学生の学習にマストではないと思います。中学校ではノーメディアデーも実施されていたと記憶しますが、それは同じ思いからだと思います。 次に、ドリルやワークではダメなのでしょうか？ 学習の解説は授業で、足りない分の演習を家庭で行うという認識で進めますが、家庭学習はドリルやワークではダメなのでしょうか？ドリルやワークは40年前から驚くほど変化していません。それにはそれなりの理由があるのではないのでしょうか？基本は家庭学習はドリルやワークで、それが難しい生徒に関してはそれ以外、例えばタブレットやプリントで対応が最善であるように思えます。  必死に作られたものに勝手に意見し申し訳ありません。地産地消90%などは田布施のようなまちにしかできない目標だと思います。同様に直接的な教育の分野にも都会にはない、田布施らしい目標を設定いただくようお願いいたします。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、タブレットのKPIについては削除いたします。</p>	○

提案者	No.	質問・意見	意見に対する町の考え方	反映したもの																
提案者 8	72	<p>「たぶせ未来戦略(案)」に対するパブリックコメント募集にあたり、勝手な意見を書かせていただきます。今後「たぶせ未来戦略(案)」をたたき台にして更に委員の皆様によってブラッシュアップされた「たぶせ未来戦略」になることかと思いますが、現状の「たぶせ未来戦略(案)」拝読しただけでは町のすべての分野における行政運営の基本となる「最上位計画」として位置づけられ、今後のまちづくりの方向性を示し</p> <p>役割① 参画・協働のまちづくりを進めるための共通目標          役割② 自立の地域経営を進めるための行政運営の指針          役割③ 広域行政に対する連携とまちづくりの主張の基礎を担うまでのきめ細かな計画であると思えません。</p> <p>基本目標(P14)は3本柱として【目標1】こどもファーストのまちづくり          【目標2】「やっぱり田布施がいい」と思えるまちづくり          【目標3】地域資源を活かし、再生発展するまちづくり</p> <p>これらは基本目標としてとてもよい選定だと思います。またそれぞれの【数値目標】も基準値を設定し、現状成り行き数字に+改善値をくわえた数字を置いて設定されているのだと思います。(数字の妥当性は検証されると思いますが)</p>	<p>「たぶせ未来戦略」策定に於いては、総花的なものにならないよう優先度の高い事業について記載する方針としており、細かに記載していないをご理解ください。きめ細かな計画は、巻末で示しております個別計画をご覧ください。</p>																	
	73	<p>【懸念事項A】</p> <p>設定されている個別施策のKPIが基本目標の数値改善につながるのか推進計画の展開で個別施策とそのKPIが表記されており、各々具体的に重要な推進計画であることは理解できますが、どの程度基本目標の数値を押し上げるのか疑問です。実施計画は毎年見直すから遅れていけば更に追加するという考え方もあるかと思いますが、行政担当部門はKPIをクリアしたが、基本目標数字に大きく届かなかったということがなきようお願いいたします。</p> <p>そのためにも、第6次田布施町総合計画「～いのち育み、未来へつなぐ～笑顔と元気あふれる住みよいまち田布施」の評価と改善点を抽出ください。PDCAサイクルはご存じの通り継続しなければ意味がありません。</p> <p>幸いにも 東町長の「こども」「健やか」「いのちと生活をまもる」「暮らしやすい」まちづくり方針は継続されているので、第6次田布施町総合計画期間中に行われた町政の各施策の評価は、コロナウイルス騒動で振り回された部分を差し引いても十分参考になるものと思います。</p> <table border="1" data-bbox="241 914 882 1329"> <thead> <tr> <th>基本目標</th> <th>主な施策</th> <th>推進計画の展開</th> <th>KPI (重要業績評価指標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こどもファーストのまちづくり 【数値目標】 労働力人口比率増加 基準値 53% 目標値 58%(2030年)</td> <td></td> <td></td> <td>a xx% b xx%以下 c xx回以上</td> </tr> <tr> <td>「やっぱり田布施がいい」と思えるまちづくり 【数値目標】 人口ビジョンにおける 将来展望人口の達成 基準値 14,483(2020年) 目標値 12,563(2030年)</td> <td></td> <td></td> <td>d xx名以上 e xx人→xx人 f xx件</td> </tr> <tr> <td>地域資源を活かし、再生発展するまちづくり 【数値目標】 クロスファンクショナルプロジェクト数 基準値 0件 目標値 5件(2030年)</td> <td></td> <td></td> <td>g +xx% h +xx歳</td> </tr> </tbody> </table>  <p>【おもいつくだけでも】          他市町に先行しての給食費無償化          こども医療費助成          保健センター(母子保健推進の活動拠点)          子育てアプリ          新婚生活支援事業          子育て！出産祝い金事業          親元近居・子育て住まい          ゆうなんこども(ポコアポコ)          おむつ定期便          子育て応援商品券          地域応援商品券</p> <p>給食センター運用見直し          水道事業団見直し          田布施農工通学路拡幅工事          城南住宅          防災拠点整備          光地区消防組合東出張所移転</p>	基本目標	主な施策	推進計画の展開	KPI (重要業績評価指標)	こどもファーストのまちづくり 【数値目標】 労働力人口比率増加 基準値 53% 目標値 58%(2030年)			a xx% b xx%以下 c xx回以上	「やっぱり田布施がいい」と思えるまちづくり 【数値目標】 人口ビジョンにおける 将来展望人口の達成 基準値 14,483(2020年) 目標値 12,563(2030年)			d xx名以上 e xx人→xx人 f xx件	地域資源を活かし、再生発展するまちづくり 【数値目標】 クロスファンクショナルプロジェクト数 基準値 0件 目標値 5件(2030年)			g +xx% h +xx歳	<p>貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。</p>	
基本目標	主な施策	推進計画の展開	KPI (重要業績評価指標)																	
こどもファーストのまちづくり 【数値目標】 労働力人口比率増加 基準値 53% 目標値 58%(2030年)			a xx% b xx%以下 c xx回以上																	
「やっぱり田布施がいい」と思えるまちづくり 【数値目標】 人口ビジョンにおける 将来展望人口の達成 基準値 14,483(2020年) 目標値 12,563(2030年)			d xx名以上 e xx人→xx人 f xx件																	
地域資源を活かし、再生発展するまちづくり 【数値目標】 クロスファンクショナルプロジェクト数 基準値 0件 目標値 5件(2030年)			g +xx% h +xx歳																	
		<p>【懸念事項B】</p> <p>地方公共団体の役割；地方創生2.0を現場で中心的に担う主体として、関係者を巻き込んで取組を推進。これは非常にハードルの高いことで、地方創生2.0ということでサラッと記載されているが、「たぶせ未来戦略」を推進するにあたり、田布施町単独でできないことは国や県もしくは同じ志をもつ市町、もしくは民間団体と連携をとって動く必要があります。よもすれば「これは国の仕事、県の仕事」とならないか心配。</p> <p>田布施町は近隣柳井市・平生町とはさまざま連携実績がありますし、また消防や医療の面では光市と連携が多いです。地域で連携して県や国に働きかけるにしても、連携先のまちづくり方針に合致したのか、その市町特有の事情もあります。国や県も単独からの要望よりは話を聞いてくれるかもしれませんが、優先順位はつくかとおもいます。</p> <p>一方 町民からみれば、行政の窓口は町役場であり、「たぶせ未来戦略」の主体は田布施町行政部門だと考えるのが自然です。リソース(人材・財政)の限られている中から、マネージメントするのはなかなか困難かとは思います。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。</p>																	
提案者 9	74	<p>2024年4月「人口戦略会議」で2050年までに20～39歳女性が半数以下となる自治体を「消滅可能性自治体」令和6年第4回田布施協議会で「人口問題や少子化問題など」国・県・自治体はその垣根を越えて施策を展開し、人口減少の抑制に一生懸命努める旨の答弁。また、町企画財政課の担当者は「女性が働きやすい町づくりを意識して対策を考えたい」と新聞記事にありました。それらの社会的な情勢を踏まえた「たぶせ未来戦略」なるものと期待しています。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。</p>																	
	75	<p>「地方創生2.0」の基本構想の5本柱～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生</li> <li>◆稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生～地方イノベーション創生構想～</li> <li>◆人や企業の地方分散～産官学の地方移転、都市と地方の交流等による創生～</li> <li>◆新時代のインフラ整備とAI・デジタルなどの新技術の徹底活用</li> <li>◆広域リージョン連携が、「地方創生2.0」の基本構想の5本柱ではないでしょうか。②東京一極～ ⑤「産官学～」の文語が無いように思います。</li> </ul>	<p>「たぶせ未来戦略」策定においては、総花的なものにならないよう優先度の高い事業について記載する方針としており、優先度が高いと町が考えるもの3つを選んでいきます。</p>																	
	76	<p>町を取り巻く諸情勢と課題</p> <p>出典は令和7年6月13日閣議決定された「地方創生2.0基本構想」の「第2章地方創生をめぐる現状認識」からのそのままの文書文語であり「人口減少」「少子高齢」を前提として田布施町民の為の施策が『たぶせ未来戦略』とするなら、「東京圏」「転出」「転入」の文字を繰返し多用する必要はないように考えます。</p> <p>諸情勢が田布施町にどのような社会現象、生活に影響しているのかの現実を明らかにして、それぞれ重要項目を課題としてまとめた文書にすべきと思います。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。</p>																	
	77	<p>田布施町長は「福祉の充実」「行政サービスの維持」の為の基盤となる施策を「たぶせ未来戦略」にした旨の意思挨拶になっています。当該文中に「人口減少」「少子高齢」の文語が8ヶ所つづられます。</p> <p>この「人口減少」「少子高齢」は、平成初頭から多様に使われていて、町民だれもが認識理解していると思います。</p> <p>「挨拶」は文書、文語の修正、添削が可能なら、それらを最小限にして「笑顔と元気あふれる住みよいまち田布施」・「やっぱり田布施がいい！」そして、「安全安心と福祉のまち田布施」の実現に向け、町民が希望と期待がいただける決意を示す文面になればよいと思います。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。</p>																	
	78	<p>町勢の概要</p> <p>町民に向けた『たぶせ未来戦略』です。</p> <p>1.位置、～2.歴史～の文書と未来戦略の推進施策に不可欠な関係データグラフを除いて削除してもよいように思います。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。</p>																	

提案者	No.	質問・意見	意見に対する町の考え方	反映したもの
	79	2.地域経済の状況この項の1.5ページ分は田布施町を取り巻く諸情勢ではなく、日本全体の社会情勢と経済情勢をつづった文面になっています。 3.地方創生をめぐる社会情勢の変化 過去10間の変化を述べている項と思われますが、不動産価格、首都直下地震、外国人旅行者、AI~ロボット~、衛生測位技術、な等々の文面が目立ちます。  田布施町の地方創生に影響する事項を取りまとめて記述すべきと考えます。 地方の文語から山口県や東部の社会情勢と経済情勢から田布施町が直接・間接的に影響しているモノが記述される事で町民が身近に受け止められる社会情勢と思われる。	貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。	
	80	人口と世帯 この項に“世帯”に関する文語、グラフ情報がありません。“世帯”に関する分析文を入れるか“世帯”標題を抹消すべきと考える。	「世帯」を削除します。	○
	81	14ページ 基本目標1 労働人口比とあるのは7ページの年齢3区分別人口構成比~(田布施町)令和2年生産年齢人口割合からの出典値と思われます。『たぶせ未来戦略』は令和8年度が基準年度であることから直近の(国勢調査2025の統計確定値により) 令和7年を基準値にすべきと考えます。	令和7年度国勢調査結果は、現時点公開 (e-Stat 政府統計の総合窓口) されておらず利用できません。 改訂時にできる限り新しいデータを利用するよう努めます。	
	82	KPI値 推進施策の評価指標であり、『増加』・『~思う割合』は不適当な設定と思います。 90%~100%と指標目標が高い項目がある、推進施策の原状値不明ですが、90%-100%に設定する重要性が不明。 目標値・KPI値は現状基準年を明かにすべきと考えます。	現状値を追記します。	○
	83	社会教育の推進 地域、家庭、学校の連帯感の醸成 公民館・小学校に関する事業、行事は長年継続的に続けてきています。 子どもの親世代の働き方の少子と世話人高齢の情勢で指導者が居なくなる状況があります。 次代を任す世話人・指導者の発掘、育成が社会教育を進める第一歩です。このことがそれぞれの“未来構想”の優先施策と思います。	貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。	
	84	スポーツ活動~ 施策は施設の運営管理・改修、様々なスポーツ体験~でKPIはスポーツセンターの利用人数にしています。 “わがまちスポーツ：ウォーキング”は施設外の場所で多くの町民がスポーツ活動をしています。 スポーツ推進計画では学校の体育館や運動場の施設でスポーツ活動が可能であり、それらの施設利用を含めた利用人数の指数とすべきと考えます。令和3年版田布施町勢要覧からスポーツセンターの利用者は令和2年の利用者は42003人になっています。その1.6倍の年間7万人以上になっています。人口減の社会情勢を考える非現実ではないかと思えます。	貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。	
	85	図書活動の推進 令和2年図書館の入館者24,837人 図書の貸出69,249冊です。現在の町人口14,000人として≒4.95冊/人の図書館貸出書になります。 令和12年の推計人口13,000人になると、年間図書貸出KPI値5冊/人で年間貸出数は65,000冊になり、と比べて実質“6,900冊減”の貸出数になります。	貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。	
	86	公民館(講座、教室など)の利用回数の10回以上は現状達成していると思います。 公民館、郷土館、図書館は社会教育の基幹施設それぞれの利用者を目標指数にすべきと思います。	貴重なご意見ありがとうございます。 公民館講座や生きがい教室を開催：年10回以上 → 年12回以上に修正します。	○
	87	基本目標1 結婚・出産しやすい環境づくり “結婚”に関する文言、施策がありません。(結婚しやすい環境づくり)はどうするのですか。	「結婚」に関する施策を追記します。	○
	88	計画策定の意義 【第6次田布施町総合計画】【第2次田布施町まち・ひと・しごと創生】策定してきた、とありますが策定して、推展展開した成果を踏まえた『たぶせ未来戦略』になると考えます。 “策定して推展展開した成果を踏まえた”の文語にすべきと思えます。	貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。	
	89	実施計画 ~毎年度~対応したものとします。ただし、とあります。 32ページに『たぶせ未来戦略』に関係する(29種類の計画、プロジェクトがあります。公民館に文書資料なし。本庁の所管部門も不明。町ホームページの検索も困難です。現実にそれらを内容確認は不可能であり、【本冊子には付随しない】にする事は『たぶせ未来戦略』との関係性の内容確認が不可能です。【本冊子には付随しない】ことは、本パブリックコメントの不適切対応と考えます。	関連する計画が参照できるよう公開までに検討します。	
	90	【第6次田布施町総合計画】【第2次田布施町まち・ひと・しごと創生】推展展開した成果(目標に対する結果または途中情報)が不詳で公表が可能なものを開示して下さい。	貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。	
	91	基本目標のKPI値は人に関するモノが多くあります。 令和8年度から始まる『~戦略』では、策定にあたり人口に関するデータは重要な基礎情報と考えます。 国勢調査ごとの資料公的な重要データですが総務省、山口県などの各年の統計資料など出典も必要ではないでしょうか。 少子高齢社会や次代を担う人口の減少は町民それぞれ認識理解していると思い、令和2年よりも最新の年次で紹介されることが望まれます。	貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。	
	92	表・グラフで世勢を示されています。 グラフ指数の単位がありません 表・グラフの人口情報の標題名称では、人口が増える多くなる、減るまれば少なくなるとは言いが人口が伸びる？人口が縮む？とは言わないと思えます。	訂正します。	○
	93	9ページ 産業別の特化係数が紹介されています。基本目標1・2.3.施策展開やKPI値において、直接的、間接的に関連する必要不可欠なデータ一とは思えません。出典する理由がないと思えます。	田布施町の産業別特化係数において、田布施町の産業の傾向が掴めます。若者の転出超過を考える上で必要な情報と考えています。	
	94	(2)「交通空白」 KPI値 駅乗降客数2000人⇒2400人 令和12年には、田布施町や近隣市町の人口減が20%になる予測もあり、田布施駅の改修や周辺環境が整備されても、田布施駅の利用者は増加するとは考え難いのではないかと考えます。	今後の施策により駅乗降客数の向上は高い目標で取り組みます。	

提案者	No.	質問・意見	意見に対する町の考え方	反映したもの
提案者 1 0	95	KPI 「小中学校のタブレットを持ち帰って学習する割合：100%」について  タブレットの持ち帰りには、端末の破損・紛失リスク、荷物の増加による身体的負担、家庭での利用ルールに関する課題といったような次のデメリットが考えられます。 保護者と十分話し合い慎重に対応すべきと思います。  持ち運びに関するデメリット * 破損・紛失のリスク: 登下校中にタブレットを落としたり、水に濡らしたりして壊してしまう可能性があります。 * 荷物の増加と身体的負担: タブレット本体やカバーが重く、ランドセルが重くなることで、子どもが腰や肩の痛みを訴えることがあります。 * 充電の不便さ: 学校で充電が不十分な場合や、自宅に適切な充電器がない場合に、充電切れで学習が中断されることがあります。 家庭での利用に関するデメリット * 学習以外の利用: 家庭に持ち帰ることで、学習以外の目的でタブレットを使用し、学習に集中できないという保護者の懸念があります。 * 利用ルールの策定と遵守: 家庭での利用時間や内容に関するルール作りが必要ですが、学校側の一方的な押し付けではなく、子どもたちの声を聞きながら改善していくことが重要です。 * 兄弟間での問題: 兄弟がいる家庭では、タブレットの取り違えや、ゲーム利用を巡るトラブルが発生することがあります。 健康面への影響 * 視力低下や目の疲れ: 長時間の使用や不適切な姿勢での使用は、視力低下や目の疲れにつながる可能性があります。 * 睡眠への影響: 就寝前のタブレット使用は、睡眠の質を低下させる可能性があります。 その他 * Wi-Fi接続の課題: 自宅のWi-Fi接続がうまくいかない場合や、電波状況が悪い場合に、オンライン学習に支障が出る可能性があります。 * 個人情報保護の懸念: インターネット上への個人情報アップロードや、不適切なサイトへのアクセスなど、情報モラルに関する問題も挙げられます。	ご指摘を踏まえ、タブレットのKPIについては削除いたします。	○
提案者 1 1	96	【一番伝えたいこと】 2 1 ページ 全体の中で一番意見を言いたいのがこのページのKPIです。 タブレットの持ち帰り学習 1 0 0 %の撤回をお願いします。  タブレット学習のデメリットがわかってきたいまの段階でさらにタブレット学習を進めるような数値目標はやめてください。  半年前の9月に直接文科省の官僚と話をしましたが、これまでタブレット学習に取り組んできた振り返りと再検討が必要であり、見直しも必要であるというような発言をされていました。 国から県にそれから町に伝達されるので情報が遅いかもしれませんが、これからの5年間のベースになる未来戦略で100%という数字を出してしまえばその5年間はその数値を目標にするしかなくなってしまいます。 タブレット学習の先進地でも、子どもたちの集中力が続かない、考えが深まらない、長文の読み書きができないなどの弊害が出てきて撤回されてきています。前例というのはこういう時に使うのではないのでしょうか？  子どもたちはタブレットを楽しく使うでしょう。なぜならタブレット学習はドーパミンやアドレナリンといった興奮物質がでるゲームのような作りになっているからです。  実際子どもたちは、「当たればいい」みたいな宿題のやり方をすることがあります。間違えたときが一番の学びのタイミングであるのにです。速さを競うものでは、丁寧に書くということもなくなります。それも「当たればいい」の弊害です。  「子どもたちが楽しんで取り組んでいる＝子どもたちに良いもの」ではありません。  大人にとってはたかが5年かもしれませんが、しかし子どもたちからしたら学校生活の大部分をしめることとなります。子どもファーストというなら、子どものことを考えてこの数値の撤回をしてください。	ご指摘を踏まえ、タブレットのKPIについては削除いたします。	○
	97	【その他意見】 全体 グラフなどに使われている数字ですが令和2年より最新のものはないでしょうか？5年のくりに拘らず、出せる最新の数字の方がいいのではないのでしょうか？  あと、文体を整える、ですます調である調の統一、誤字脱字などは直しますよね。	全国と比較可能な国勢調査結果を基本として作成しておりますので、5年毎になっております。改訂時にできる限り新しいデータを利用するよう努めます。 誤字脱字は訂正します。	○
	98	1 4 ページ 「子どもファーストのまちづくり」 ファーストという言葉に違和感。 ファーストがあるということは、セカンドにされる人たちがいるということになるのではないのでしょうか？ ファーストという少し柔らかくなるかもしれませんが、「優先」という言葉にしたらどう思いますか？優先されない人が出てくるように感じるのではないですか？ 子育てがしやすい環境を整えるのは大切ですが、ファーストセカンドというはおかしいのではないかと思います。 子どもファーストといいながら、数値目標が労働力人口の比率というのもチグハグに感じます。もっと適切な数値目標の方がありそうです。 根本的なところになりますが、この3つの基本方針、これだけ幅のあるものをこの言葉たちに振り分けるのは無理があるのではないのでしょうか？基本目標はもう少し抽象度を上げて推進施策で具体的みたいな方がいいのかも	田布施町の少子化が近年急速に進んでいる現実があり、若い世代が安心して働き、結婚・出産・子育てしやすい環境を提供することが田布施町を持続可能な町にするための最優先事項と考えてのことです。	
	99	1 7 ページ いきなり田布施駅は違和感。田布施駅のプロジェクトに繋げたいんじゃろうけど、使いたいがために子どもたちのためにならないことにならないといいのですが。必要な施策を考えた時に、最適なのが田布施駅であれば使えばいいだけの話でここに文言としていれなくていいと思います。いれたら必要なくてもやらざるを得ないとかならないですかね？	いただいたご意見は、参考にさせていただきます。	
	100	1 9 ページ おむつ無償配布は素晴らしいですけど個別訪問が理想。いまの方式だと、おんどもにも来てすでに繋がれている人にしか繋がらず、本当に援助が必要な人に届かないのではないのでしょうか？	出生や転入の手続きの際、満1歳になるまでのすべての子どもを養育する世帯へおむつ定期便の案内をし、申請をしていただいています。子育て支援センター「おんども」で配布しておりますが、親子の交流促進や育児相談の場となっています。	
	101	2 0 ページ KPI この地域で今後も子育てをしていきたいと思う保護者の割合97%、この割合だけ他の目標値よりも異様に高いですが、なにかベースになるデータがあるのでしょうか？	1歳6か月児及び3歳児をもつ保護者に「すこやか親子21」アンケート調査を毎年実施していますが、その結果のデータを参考にしております。	
	102	2 1 ページ 地産地消の割合90%、これは1年通しての目標値でしょうか？それとも調査のある1週間だけの目標値でしょうか？ 年間通して地産地消の割合をあげる取り組みにしたいです。	学期ごとに1回（年3回）、地産地消週間を実施している割合となります。	
	103	2 2 ページ これからの文化の創造だけでなく、これまで築いてきた文化の継承にも触れてほしいです。	貴重なご意見ありがとうございます。次の文言を追加します。「また、郷土の伝統、文化の継承をしていくための活動や活用を図ります。」	○
	104	2 4 ページ 田布施駅のプロジェクトはこれからの田布施の生き残りをかけたものになります。行政のひとりよがりなものにならないようにお願いします。（これはパブコメじゃなくて意見ですね）	いただいたご意見は、参考にさせていただきます。	
	105	2 6 ページ 大規模な農業者や農業経営体だけでなく、小規模な農業者への取り組みも必要なのではないのでしょうか？	いただいたご意見は、参考にさせていただきます。	
	106	2 7 ページ KPIに推進施策には言及がなかったにこにこパークが突然出てくるのは違和感です。 交流館は安さが売りの施設なので、農業で生計を立てたい若者からすると難しい施設です。年配者の生きがいという面ではよいと思います。	農林業イベントの開催回数を交流館のみの回数に修正します。	○
	107	2 8 ページ 馬島には遊びにいきますし、アルバイトに行くこともあります。馬島ならでのおもてなし」というのがどのようなものかわかりません。	「馬島ならでのおもてなし」は削除します。	○

提案者	No.	質問・意見	意見に対する町の考え方	反映したもの
	108	「化学肥料・化学農薬削減の農業者を引き続き支援し」とありますが、どんな支援をこれまでされてきたのでしょうか？国の交付金のことでしょうか？	化学肥料、農薬を5割以上低減し、環境保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者に、国、県、町より補助金の支援を行っています。	
	109	29ページ 挑戦→子育て支援→若者参加→消費・交流→次の挑戦のエコシステムというのは既存のものなののでしょうか？調べても出てこなかったのですが、なぜこのサイクルになるのかわかりません。	「たふせ未来戦略策定検討委員会」において、委員の皆様が提言として考えられたものです。既存のものではありません。	
	110	30ページ 家で死ぬる町づくりってどうですかね？いいと思うんですが（これもパブコメじゃなくて意見ですね）	いただいたご意見は、参考にさせていただきます。	
提案者 1 2	111	<p>1 意見 「基本目標 1 こどもファーストのまちづくり (5) 学校教育の推進 KPI 小中学校のタブレットを持ち帰って学習する割合：100%」の修正を希望します</p> <p>2 概要 教育DXの推進について、家庭学習ではかるのではなく、授業内での活用方法の充実を第1にする。 家庭学習ではタブレットを使う方法ではなく、従来型の自らの手を動かして書く活動を重視したい。</p> <p>3 修正案 例 ○KPI 小中学校において、タブレットを使っの個別学習の充実を図る教員研修を行う：年2回 ○KPI 小中学校のタブレットを持ち帰って学習する割合：週1回</p> <p>4 修正提案理由 ①家庭学習時にタブレット100%使用が前提になってしまうと、教員自身が持つ裁量が制限される。 ドリルの内容に限定もされやすい。教員が日々の授業からその日に必要な家庭学習の内容を工夫し、考え、設定することが難しくなる。例えば、こんな課題も出されにくくなってしまふ。 (おうちの人のお手伝いをしよう、お風呂は何リットル入るか調べよう、家のリビングルームの面積を調べよう、家にある長方形を探してこよう) その際、記録方法でタブレットを毎日使用するというところもあるかもしれないが、小学生時代は特に五感を使って自分の手を動かすことが大事であり、ノートに記録するだけで充分である。タブレットがあるから毎日使わないといけないという発想ではなく、タブレットを使って表現するのが一番わかりやすいから道具の1つとして選ぶという形であってもらえたらうれしい。</p> <p>②児童生徒が電子機器に毎日触れることについては健康面、発達面などから考えてもかなり不安がある。 特に小学生低学年においてはなおさらである。以下、根拠となるものをいくつか列挙してみる。</p> <p>○タブレット学習のメリットとデメリット 側面 メリット(可能性) デメリット(リスク) 学習面 個別最適化：AIドリル等が個子の習熟度に合わせた問題を提示。苦手克服が早い。思考の浅薄化：選択式問題に慣れすぎ、深く考えたり記述したりする力が停滞する懸念。 スキル面 情報活用能力：検索、資料作成、プレゼン能力など、社会で必須の「武器」が身につく。依存と脱線：学習以外のアプリや動画視聴への誘惑が強く、自制心(実行機能)が試される。 連携面 シームレスな学び：学校の続きを家で行い、即座に先生に提出・フィードバックが可能。境界の消失：「家庭=リラクスの場」に学校が入り込むことで、心理的な休養が不足。</p> <p>○脳科学・医学的視点：前頭前野と視力への影響 ・根拠：東北大学の川島隆太教授らの研究では、長時間のデジタルデバイス利用が「前頭前野(思考や理性を司る)」の発達を抑制する可能性が指摘されています。 ・考え方：タブレット学習は「受け身(受動)」になりやすく、特にゲーム性の高いドリルはドーパミンを過剰に放出させ、依存状態を招くリスクがあります。 また、30cm以内の近距離を凝視し続けることによる「近視の進行」と、ブルーライトによる「睡眠の質の低下」は物理的な健康リスクとして確立されています。</p> <p>○認知心理学的視点：ワーキングメモリの分散 *根拠：認知負荷理論。 考え方：デジタル端末は「操作すること」自体に認知資源(脳のメモリ)を割いてしまい、肝心の「学習内容」に集中しきれない場合があります。特に、複数の通知が飛んてくる環境では、深い思考(ディープ・ワーク)が妨げられやすいのが専門家の懸念点です。</p> <p>○発達段階におけるデメリット：感覚の「偏食」 小学生、特に低～中学年は**「感覚運動期」から「具体的操作期」**への過渡期にあります。 この時期にデジタルに偏ることの質的なリスクが指摘されています。</p> <p>「実体験」の不足と認知の歪み 視点：児童心理学・感覚統合療法。 考え方：現実世界は「重さ」「匂い」「手触り」「温度」を伴う3D情報です。画面上の2D操作だけで「わかったつもり」になると、身体性を伴わない、もろい知識になりがちです。 (例：画面で水のシミュレーションは見ても、実際にこぼした時の広がりや冷たさを知らない、など)。 実行機能(自制心)の発達阻害 視点：脳科学。 考え方：タブレットは「クリックすればすぐ反応が返る」という即時報酬の世界です。しかし、現実の学習や人間関係は「待つ」「耐える」「試行錯誤する」という遅延報酬が基本です。デジタルへの過度な依存は、前頭前野が司る「衝動を抑える力」や「粘り強く考える力」の発達を妨げる懸念があります。</p> <p>「共同注意」の減少 視点：社会性発達。 考え方：家庭で親子がそれぞれの画面を見ていると、同じものを見て驚いたり笑ったりする「共同注意」の機会が減ります。これは語彙力の獲得や、他者の感情を読み取る能力の発達において大きな損失です。</p> <p>5 おわりに 以上、デジタル機器のデメリットも配慮した上で、もう一度再考していただきたく、提案いたします。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、タブレットのKPIについては削除いたします。</p> <p style="text-align: center;">○</p>	

提案者	No.	質問・意見	意見に対する町の考え方	反映したもの
提案者 1 3	112	<p>①タブレット持ち帰り率100%について</p> <p>KPIを「持ち帰り率」に設定した場合、目的と手段が入れ替わってしまう懸念があります。</p> <p>文部科学省からの各種通知において、タブレットの持ち帰り率が指標として示されている点は承知しておりますが、これはあくまで学力向上を目的とした手段の一つであり、「たぶせ未来戦略」における主要KPIとして設定することは、本来の目的を歪める可能性があると考えます。</p> <p>先月、ICT教育の先進国であるスウェーデンにおいて、タブレット中心の教育方針の見直しが発表され、国際的にも議論が進んでいます。先行して導入を進めてきた国だからこそ、検証結果が蓄積されてきたものと理解しております。</p> <p>また、シンガポール政府の見解にも見られるように、学習内容の定着という観点では、紙媒体による学習が有効である場面も一定程度存在するとされています。</p> <p>(感染症の再流行時や遠隔地通学等、ICT活用の有効性が高い状況は別途考慮が必要と存じます)。</p> <p>こうした点を踏まえ、田布施町においては、「紙とタブレットを併用したハイブリッド型学習の推進」を基本方針として位置付けることも一案ではないでしょうか。</p> <p>例えば、反復学習等ICTの特性を活かせる分野においては専用アプリを活用したり、長期休業期間中には学級担任の関与のもと、指定されたオンラインツールを通じて学習進捗や定着状況を共有したりするなど、運用面の工夫によりタブレットの教育効果を高めることが可能と考えます。</p> <p>②KPI設定の在り方について</p> <p>KPIの設定にあたっては、「持ち帰りの有無」ではなく、「学習活動への実質的な活用状況」を測定可能な指標とすることが望ましいのではないのでしょうか。</p> <p>例として、以下のような指標が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆週3日以上タブレットを活用した家庭学習実施率</li> <li>◆家庭におけるデジタル教材ログイン率</li> <li>◆1日あたりの平均学習アプリ起動時間</li> <li>◆学習課題のオンライン提出率</li> <li>◆児童によるデジタル成果物の家庭作成率</li> </ul> <p>また、調べもの学習やプレゼン資料の作成といった側面においては、家庭でのICT活用が一定の効果を発揮する可能性があると考えられます。</p> <p>重要なのは、タブレットを持ち帰るという手段そのものではなく、児童が主体的に学ぶ習慣を形成できているかどうかという点にあると認識しております。</p> <p>不躰かつ僭越な意見となり恐縮ではございますが、ご検討の一助となれば幸いです。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、タブレットのKPIについては削除いたします。</p>	○